

「来賓祝辞」

塩崎恭久 厚生労働大臣 祝辞（代読：椎葉 茂樹 大臣官房審議官）

滝田会長をはじめ、ご臨席されている関係者の皆様におかれましては日頃より保健医療政策の推進にご尽力頂き心より感謝申し上げます。

これまで我が国においては、世界最高レベルの健康寿命を達成するなど国際的にも高い保健医療水準を実現・維持してきましたが、団塊の世代が75歳以上となる2025年を控える中、看護職員をさらに確保していく必要があります。本年4月に取りまとめられた「新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会」の報告書においては、我が国の疾病構造や地域社会が変容する中看護職員は多様かつ複雑な患者の医療生活ニーズに寄り添い、多職種と連携しながら患者のケアを中心的に担う役割が期待されており、今後の我が国の医療において益々の活躍が求められております。准看護師については、診療所など地域における看護職員として活躍されていること、看護師へのステップアップのキャリアとなりうること、地域雇用の受皿になることなど、重要な職種であると考えており、厚生労働省においてはビジョン検討会の報告書も踏まえ今後教育カリキュラムなどの拡充などの必要な対応を進めていきたいと考えております。

議会の設立目的である准看護師の教育研修体制が構築され、准看護師のさらなる能力の向上が高められることを大いに期待しております。

最後に本日お集まりの皆様のご健勝と日本准看護師連絡協議会の益々のご発展を祈念して私の挨拶と致します。



椎葉茂樹大臣官房審議官に、厚生労働大臣祝辞をご代読頂きました。



島田陽子 医政局看護課長にもご臨席いただきました。

公益社団法人日本医師会 横倉義武会長 祝辞（代読：釜菴 敏 日本医師会常任理事）

日本准看護師連絡協議会第1回定期総会の開催にあたり、日本医師会を代表致しましてひとことご挨拶を申し上げます。

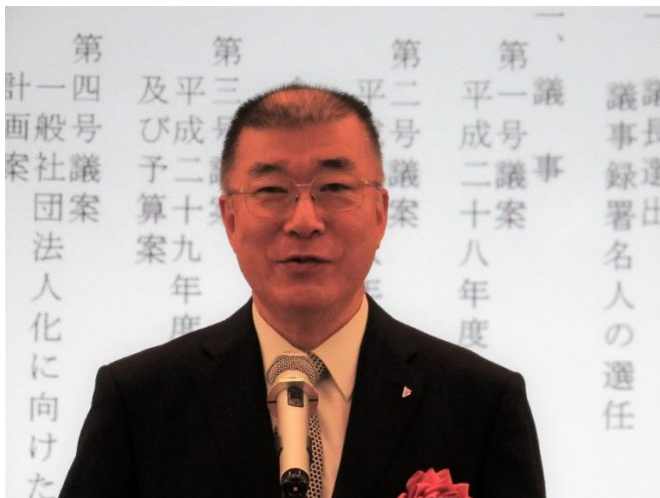
まずもって、准看護師の皆様には、全国津々浦々で地域の医療介護提供体制を支えて頂いておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、本日第1回定期総会を迎えられたわけでありますが、新たな団体を一からスタートさせるにあたっては役員、事務局の皆様の大変なご苦勞があったものと思います。そのような中で、すでに3月に第1回講演会を開催し、平成29年度には全国各地で10回の研修会を呈するなど研修体制の確立に向けて着実な歩みを進めておられることに心より敬意を表する次第であります。こうした体制が整うことにより今後正会員も増え、研修を受けた准看護師の方々にさらに活躍して頂けるものと大変期待をしております。

ただ申し上げるまでもございませんが、地域包括ケアシステムの構築に向け看護職の確保は近々の課題であります。少子化が進む中で新卒だけに頼っているだけでは超高齢社会を支える看護職を確保することはできません。現在、准看護師養成所には社会人の方も多く入学し、資格を取得されています。育児を終えた方々なども超高齢社会を支える人材として活躍することが可能であり、准看護師資格はまさに多様な人生の選択肢の一つとして総活躍しするものであらうと考えております。現在、准看護師として働いている方はもとより、新たに准看護師資格を取得する方にとっても生涯研修体制の充実は非常に重要であります。

日本医師会及び四病院団体協議会は、平成29年度より賛助会員として入会致しました。引き続き貴会の活動を支援させて頂きたいと考えております。また、各地域の医師会でも卒後研修を行っているところがございますので、そうした研修との連携も進めていければと考えております。

結びと致しまして日本准看護師連絡協議会の益々のご発展と本日ご参集の皆様方のご健勝とご活躍を祈念致しまして挨拶とさせていただきます。



釜菴 敏常任理事に、日本医師会横倉会長祝辞をご代読頂きました。

一般社団法人日本医療法人協会 加納 繁照会長 祝辞

本日は、日本准看護師連絡協議会平成29年度第1回定期総会にお招き頂き、またこのように挨拶の機会を賜りましたことをまず御礼申し上げたいと思います。

四病院団体協議会（四病協）を代表しましてひとことご挨拶させていただきます。

皆様ご存知の通り、我が国の医療介護福祉の分野において看護職員はまずは患者様の一番近くに接し、またチーム医療の中でも重要な役割を果たしております。しかし、看護職員の約4分の1は准看護師が担っているのにも関わらず、昨今の看護職員の人材育成、また看護職員教育などは看護師を対象としたものであります。このような状況下で准看護師の教育研修を受ける機会が非常に貧しい状況であると言わざるをえません。

そういう中で、昨年の3月に全国レベルで准看護師のさらなる能力向上を目指し、また生涯教育研修体制を確立する目的で貴会の設立総会が開催され、今年度は准看護師皆様方の積極的な運営活動が予定されていると聞いております。まず基礎研修としましては、感染対策、安全対策等、ステップアップ研修としましては、看護実践、大規模な講演会など多数の研修会が開催される予定と聞いております。

准看護師が医療・介護・福祉の分野で担っている役割が看護師と同等であることを考えると、昨今の医療介護技術の著しい進歩に対しての人材育成は、看護師であろうと准看護師であろうと同様の体制を図る必要があると考えております。その中で、日本准看護師連絡協議会は大きな役割を今後担っていく必要があるということで、また大きな期待をしております。

また、もう一点、四病協の中では色んな議論をしておりますが、まずは看護師を中心に今の看護体制はあるわけですが、准看護師の力を借りて更に大きな今後の体制作りをしないといけないと考えております。そのためには、四病協を挙げて今後の会員増強に関しましてもしっかりと担っていかないといけないと考えております。

最後になりましたが、日本准看護師連絡協議会の益々のご発展、また今日ご参集の皆様のご健勝を祈念申し上げます。お祝いのお言葉とさせていただきますと思います。



四病院団体協議会を代表して、一般社団法人日本医療法人協会の加納 繁照会長にご祝辞を頂きました。